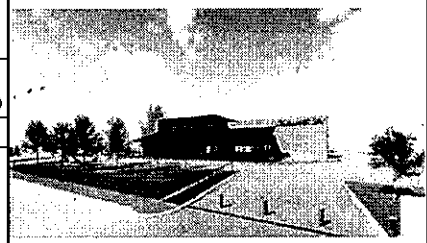


# CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

<b>1-1 建物概要</b>		<b>1-2 外観</b>	
建物名称	(仮称)株式会社 テクノブル サ	階数	地上2F
建設地	京都府相楽郡精華町光台1丁目2-	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	30人
地域区分	5地域	年間使用時間	1,800時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年3月 予定	評価の実施日	2017年5月18日
敷地面積	10,796 m <sup>2</sup>	作成者	平川慧亮
建築面積	2,215 m <sup>2</sup>	確認日	2017年5月26日
延床面積	3,057 m <sup>2</sup>	確認者	上羽一輝



<b>2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&amp;チャート)</b>	<b>2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)</b>	<b>2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)</b>
<p>BEE = 1.2 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★★★★★</p>	<p>標準計算</p> <p>①参照値 0%</p> <p>②建築物の取組み -2.9%</p> <p>③上記+②以外の -2.2%</p> <p>④上記+ -2.7%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	

<b>2-4 中項目の評価 (バーチャート)</b>		
<b>Q 環境品質</b>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア= 2.9</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア= 3.2</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> Q3のスコア= 3.2</p>
<b>LR 環境負荷低減性</b>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア= 2.8</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア= 3.3</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア= 3.7</p>

<b>3 設計上の配慮事項</b>		
<p><b>総合</b> 京都らしい片流れ屋根とし、街並み景観を創出する。また、軒の高さを極力低く抑え、ヒューマンスケールに配慮した来客を迎え入れるような外観を目指している。計画建物の北側は将来増築時のリザーブ用地を確保している。</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> F★★★★以上の建築材料を使用し、化学汚染物質の放散量を削減する計画とする。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> 2階には従業員ラウンジを設けリフレッシュできるスペースを計画している。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 計画建物は2階建て(一部平屋建て)とし、高さを極力抑え、周辺に対する圧迫感を軽減する。また道路・隣地境界にフェンス等の囲いはず、見通しの良い、開放性のある植栽帯を設ける。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b> 太陽光発電設備を設置することで自然エネルギーの利用を行っている。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> 内装材を乾式化することで、改修しやすく材料の再利用の可能性を高めている。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> 建物形状をコンパクトにし、既存の緑地を残し、さらに敷地周辺に植栽帯を配した計画としている。また南面には高木、低木を配置し、敷地外への熱的影響の悪化防止に努めた。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される